



特別上映会「わたしの、終わらない旅」 & トークセッション

2018年11月17日（土）13:30～16:30

日比谷図書文化館・大ホール

11月17日(土)に枯れ葉剤の被害を描いた映画「花はどこへ行った」「沈黙の春を生きて」で数々の賞を受賞された坂田雅子監督の映画『わたしの、終わらない旅』の上映会と、坂田監督と上遠恵子さんとのトークセッションを行いました。映画に登場するのは核や原子力に翻弄された人々。フランスのラ・アグにある核再処理施設の海洋汚染を訴える反原発活動の人々。水爆実験が繰り返されたビキニ環礁のあるマーシャル諸島では、伝統的な漁での暮らしが不可能になって美しい故郷を追われ、今も戻ることができない人々がいる。旧ソ連の核開発拠点カザフスタンでは汚染された大地で今なお生きる人々がいる。そしてこの映画を製作するきっかけになった、生前に反原発活動をされていた今は亡き坂田監督の母とその当時の活動を纏めた「聞いてください」という一冊の本。これまで知らなかったことが次から次へと展開され、真実を語る人々の声を聞いて、原発事故の当事国に暮らす私たちも決して無関心になってはいけなく、思わずにいられませんでした。真実を伝えて行くことの大切さ、知ることの大切さを、映画に教えていただきました。続く第二部のトークセッションでは、坂田監督から、これまでの活動の経緯や亡くなられたお母様のエピソード、そしてドキュメンタリー映画という媒体を通して世の中にメッセージを発信し続けていくことに対する思いが、上遠さんから、カーソンとの出会いからカーソンの意思を伝えて行くことに対する思い、そこにカーソンの作品から抜粋して紹介していただいたカーソンの言葉が重なり、互いにエピソードを交えながら沢山のメッセージを届けていただきました。トークの間は絶妙な掛け合いと共に、お二人の強い信念が、優しく時にユーモアを交えて語られ、会場全体も引き込まれて素晴らしい雰囲気になりました。会場には福島からお越しになられた方もお見えになられ、会場とのQ&Aでは、会場の皆様から沢山の貴重なご意見を伺うことができました。映画とトークセッションを通じて、同じ過ちを繰り返してはいけないこと、生命に軸足を置くことが大切なこと、そのためには現実に目を反らさずに向き合い、自分で考えて行動して行かなければいけないということを教えていただきました。当日は大勢の方にお越しいただきイベントは盛会でした。

参加していただいた皆様には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(文責 柳澤)